

事務事業評価(事前評価)シート【令和6年度】

主管課(担当名)	【教育総務課】	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画 <input checked="" type="checkbox"/> 重点プロジェクト
事務事業名	インクルーシブ教育推進事業	事業番号	13033

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	3-04	特別支援教育の充実
	施策目標	子どもたち一人ひとりの教育ニーズに応じた特別支援教育が受けられるまち	

2 事務事業の目的

目的	インクルーシブ教育の更なる推進に向け、学校の登校が難しい児童・生徒への支援体制の強化を図り、不登校の解消を目指す。
成果	不登校児童・生徒の課題解決に繋げるため、支援体制の構築を図るとともに、研修を実施し取組を加速させる。
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営(市が直接実施) <input type="checkbox"/> 補助(民間等に補助) <input type="checkbox"/> 委託(民間等に委託) <input type="checkbox"/> その他
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務

3 事務事業の概要

事務事業の概要	年度	概要						
	R2							
	R3							
	R4							
	R5							
	R6	インクルーシブ教育の推進のためのインクルーシブ教育推進支援員や地域と連携した不登校児童・生徒の居場所づくり等をおこなう地域連携推進員を配置。						
		(単位:千円)	R2	R3	R4	R5	R6	総事業費
事業費と内訳	事業費					2,713	2,713	
	内訳	国庫支出金						
		道支出金						
		地方債						
		ふるさと関連基金						
		その他					4	4
	一般財源					2,709	2,709	
人員(人工)					0.3	0.30		
職員費(人員×7,262千円)					2179	2179		
総事業費					4,892	4,892		
維持管理	管理主体							
	運営方法							
	維持管理費	施設維持費						
		概算人件費						
	合計/年							

4 事務事業の現状と課題

活動指標	指標名	計画値 (R5)	目標値 (R2)	目標値 (R7)
	インクルーシブ教育推進支援員(非常勤)の配置	1	-	1
	地域連携推進員の配置	1	-	1
			-	
			-	
事務事業改善策 (継続事業のみ記入)				

5 事務事業の効果について

取組みに当たって期待される効果など	<p>これまでの一斉指導や同質性を求める指導方法から脱却が図られ、インクルーシブ教育の更なる推進に繋がる。</p> <p>また、様々な理由から長期の不登校となった児童・生徒への対応にあたり、家庭でも学校でもないサードプレイスの役割も担う適応指導教室(ふれあいくらぶ弥生)に加え、ICTを活用したオンライン相談、居場所づくりなど、不登校児童・生徒への関わりを増やすことにより、不登校対応への体制強化が図られる。</p>
--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 評価の視点

ア. 市民ニーズ	<p>■かなりのニーズがある <input type="checkbox"/> ニーズはある <input type="checkbox"/> ニーズはあまりない</p> <p>近年、小中学校等における不登校児童生徒数が増加傾向にあり、不登校児童生徒への支援のニーズは高まっている。</p>
イ. 市が実施する必要性	<p>■市が実施すべきである <input type="checkbox"/> 市の実施について検討の余地あり <input type="checkbox"/> 市以外で実施可能である</p> <p>子どもたちが平等に教育を受ける機会を確保するため、就学が難しい生徒を支援することは市が取り組む必要がある。</p>
ウ. 事業の緊急性	<p>■緊急性が高い <input type="checkbox"/> 緊急性はある <input type="checkbox"/> 緊急性はない</p> <p>様々な事情により学校に通えない子どもたちに寄り添い、学校生活への復帰を支援することは緊急性が高い。</p>
エ. 手段の適切性	<p>■適切である <input type="checkbox"/> 現状として妥当である <input type="checkbox"/> 検討の可能性はある</p> <p>学校に通えない子どもたちの居場所の一つとして、多様な学びや支援を提供しており適切である。</p>
オ. 事業の公平性	<p>■公平性は高い <input type="checkbox"/> 概ね公平である <input type="checkbox"/> 改善の余地はある</p> <p>子どもたちが平等に教育を受ける機会を確保するため、教育環境の整備を推進することは公平性が高い。</p>
カ. 事業の有効性	<p>■本事業の有効性が高い <input type="checkbox"/> 本事業の有効性がある <input type="checkbox"/> 既存事業と大きな差はない</p> <p>学校に通えない子どもたちへの支援として、多様な学びの支援や居場所を提供することは、子どもたち一人一人に適した教育を提供するために有効である。</p>

7 今後の事業の進め方

ア. 総合政策部で付された意見	<p>【計画どおり実施】</p> <p>計画どおり事業推進を図り、児童生徒一人ひとりの個性と価値観を尊重する教育の実現を進められたい。</p>
イ. アを踏まえ、担当部局の方針	<p>■計画どおり着手が適当 <input type="checkbox"/> 再検討し実施する <input type="checkbox"/> 着手を延期する</p> <p>すべての子どもたちが共に学び、自分らしく成長できるインクルーシブ教育の更なる推進に向け、支援体制整備を進める。</p>

作成年月

令和6年7月